

国分寺の自然と生きもの

国分寺市生物多様性地域戦略(概要版)



令和7年7月
国分寺市

知っていますか？国分寺市の自然の豊かさ

国分寺市は、市内の半分以上に家やお店などが建てられていますが、畑などの農地もたくさん残っています。とくに、北西部の戸倉、並木町、北町、西町、南部の西元町の地域などに多くあります。



キボシカミキリ



カブトムシ



アブラハヤ



タチツボスミレ



ヤマサナエ

市の面積のうち、農地の割合が多摩地域で3番目に高いんだ！



農地



にしこいがくぼりよくち
①西恋ヶ窪緑地 (エックス山)



すがたみ
②姿見の池



国分寺市を歩いていて「坂が多いな」と感じたことはありませんか？それは「^{こくぶんじがいせん}国分寺崖線」と呼ばれる、昔の多摩川の水が土をけずってできた地形があるからです。この崖線の周りには緑や湧水など、たくさんの自然が残っています。



野川を流れる水は、
国分寺崖線からの湧水
が源なんだって！



わたしたちの暮らしに欠かせない「生物多様性」



生物多様性ってなんだろう？

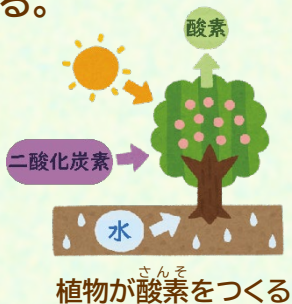
「生物多様性」とは、いろいろな「個性」を持つ生きものたちが、さまざまな環境でおたがいの個性をいかしながら「つながり合っている」ことを言います。

地球に命が生まれてから40億年という長い時間の中で、約3,000万種類とも言われる生きものが生まれてきました。これらの生きものたちは、森や川、草原、湿地、海などいろいろな場所でくらしていて、「食べる・食べられる」の関係など、おたがいに複雑に関わりあって生きています。

生物多様性はわたしたちの生活を支えている

自然のめぐみの例

生きものの命を支える土台をつくっている。



花粉を運ぶ

洋服の材料、食べもの、家の材料など、衣食住のものになっている。



大雨や強風による被害から守ってくれている。安全な飲み水をつくってくれている。



雨水をたくわえる



水をきれいにする



土砂が崩れるのを防ぐ

地域の文化の源となっている。心を安らげてくれる。



お祭りなどの行事(豊作祈願など)



自然が安らぎを与えてくれる

生物多様性が^{あぶ}危ない！

～生物多様性を^{おびや}脅かす4つの^{きき}危機～



いま、世界ではたくさんの生きものが^{ぜつめつ}絶滅の危機にさらされています。その原因のほとんどがわたしたち人間の活動によるものだと言われています。生物多様性が^{うしな}失われる大きな原因は4つに分けられ、「4つの危機」と呼ばれています。

4つの危機

^{かいはつ}開発など人間活動による危機

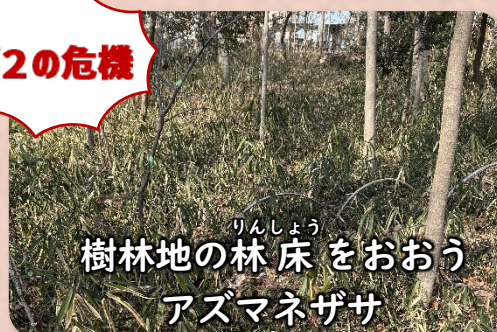
第1の危機



人が家や道をつくるために、森や畑をなくしてしまうと、生きものたちの住む場所がなくなってしまいます。

自然に対する^{はたら}働きかけの^{しゆくしやう}縮小による危機

第2の危機



畑や林などは、人の手が入らなくなると、草におおわれてしまうなど、生きものが住めなくなることがあります。

人間により持ち込まれたものによる危機

第3の危機



人がほかの地域から^つ連れてきた生きものが、元から住んでいた生きものを食べたり、住む場所を^{うば}奪ったりしています。

^{ちきゅうかんきやう}地球環境の^{へんか}変化による危機

第4の危機



人の活動によって^{きこう}気候が変わり、元から住んでいた生きものが住めない・住みづらい環境になっています。



生きものが絶滅してしまうスピードはかなり早くなっているんだって！これ以上ひどくならないために、どうすればいいんだろう？

人と生きものがともに生きるまちを目指して



国分寺市は、生物多様性を守り、いかすために「国分寺市生物多様性地域戦略」を作成しました。その中で、「人と生きものがともに生きるまち」を目指すことを決めました。これを実現するために、右図のように、生きものたちがまちの中を移動できる「緑と水のネットワーク」をつくる必要があります。

緑と水のネットワークのイメージ



緑と水のネットワークとは？

身近な緑のつながりや、野川、国分寺崖線などの広い範囲の緑と水のつながりのことです。

多くの生きものは、緑と水のある場所に住んでいて、食べものを探したり、子どもを産むために移動します。

なぜ必要なの？

人の活動などにより、緑と水がある場所が減り、生きものの住む場所が少なくなっています。緑と水のネットワークをつくることで、生きものが行き来できるようになり、生物多様性のつながりが強くなります。

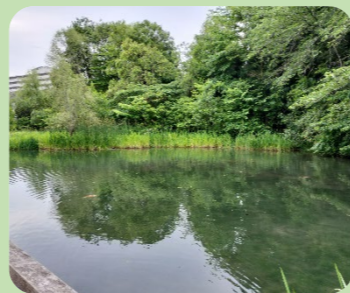


身近な緑や水が生きものをつなぐ

国分寺崖線とその周辺の緑が多いところ

将来のイメージ

- 生きものが住みやすくなっています。
- みんなで協力して、楽しみながら緑が守られ、自然や生きものとふれあえる場所になっています。



- 広域的な水の軸 (野川)
- 広域的な緑の軸 (国分寺崖線、都市計画道路 国3・2・8号線の環境施設帯)
- 生きものの生息・生育拠点となるまとまった緑
- 果樹園等
- 農地
- 樹林地
- 公園
- 水面 (池)
- 野川・用水
- 湧水
- 街路樹

家が多いところ

将来のイメージ

- まちなかの木々や畑などが守られています。
- 庭やベランダ、公園などのまちなかの緑が増え、生きものの住む場所が広がっています。



人やお店が多いところ

将来のイメージ

- その地域に昔から生きている植物がたてももの周りに植えられるなど、生きものの住む場所についても考えられたまちになっています。



“緑と水のネットワーク”をつくるために、何をしたらいいんだろう？



出典：「土地利用現況調査」をもとに作成

緑と水のネットワークをつくるために大切なこと



まずは、

＼知るう／



それから、

＼探してみよう／



さらに、

＼やってみよう／



＼知るう！



国分寺市内の緑と水のネットワーク

～水のネットワーク～

野川（のがわ）

市内唯一の河川。市内に水源を持ち、世田谷区方面に流れて多摩川に合流しています。

水中の生きものが移動するための大切な場所になっています。



～緑のネットワーク～

国分寺崖線（こくぶんじがいせん）

昔の多摩川が武蔵野台地をけずり取ってできた河岸段丘。国分寺崖線は立川市から大田区まで続いています。緑が多く残っていて、鳥や虫など生きものが移動するための大切な場所になっています。

また、崖線の下では、地下水が湧き出ている場所がいくつも見られ、その湧水が集まって野川に流れています。



野川や国分寺崖線ってどこで見られるんだろう、実際に行ってみよう！



探してみよう!



身のまわりの生きものたち

いつも通る道、いつも遊ぶ公園の木や水^{みず}辺、また、畑でも生きものを見つけることができます。実際に探しに出かけてみよう。

葉っぱのうらをのぞいてみよう



木の葉っぱのうらや、落ち葉のうらをのぞいてみよう。チョウの卵^{たまご}や幼虫^{ようちゆう}、ダンゴムシといった虫^{なかま}の仲間など、生きものが見られます。

木の幹にも小さな世界



近くにある木の幹^{みき}をよく見てみよう。コケや小さな虫たちが見られます。コケは木の種類や日当たりによって生える種類がちがいます。さらによく見ると、木の皮やコケ^{かく}に隠れている小さな虫を見つけることができます。

耳をすましてみよう

いつも歩いている道で耳をすましてみよう。鳥は種類や季節^{きせつ}によって鳴き声^ながちがいます。たとえば、カラスは種類によって「カーカー」や「ガァーガァー」と鳴きます。また同じ鳥でも、春に鳴き方が変わったりします。

あの生きものを嗅いでみよう



水辺でよく見かけるアメンボ。その名前の由来^{ゆらい}は「飴^{あめ}のようなにおいを出す」ことにあります。顔を近づけてにおいをかぐと、かすかに甘い香り^{あまかお}がします。

オナガを探してみよう



国分寺市で1年を通してよくみられる鳥です。名前のお^おりと尾^おが長く、羽と尾^{あわ}の淡い青色^{とくちよう}が特徴です。きれいな見た目ですがカラスの仲間^なで、鳴き声は「ギューーギューー」ととても激しいです。関西^{かんさい}から西側^{がわ}ではめずらしく、めったに見られません。

生きものを見つけられると、自然を身近に感じられるね!





生きものがやってくる場所づくり

おうちを緑と水のネットワークの一部にしよう



家の庭などに生きものが^{おとす}訪れやすい場所をつくることで、緑と水のネットワークが広がります。

このネットワークにより、チョウやバッタなどの^{こんちゅうるい}昆虫類、ニホンカナヘビなどは^{ちゅうるい}虫類、シジュウカラなどの^{ちゅうるい}鳥類が訪れるかもしれません。



草や木のタネを植えてみよう

草や木には、それを食べる生きものたちが集まります。



そのほかの生きものの^{いほしよ}居場所を作るコツ



石を^お置くことで、ダンゴムシやニホンカナヘビの^{かくれが}隠れ家となります。いくつか置いてみよう。



落ち葉を集めておくと、それを^{ぶんかい}分解する^{びせいぶつ}微生物が集まり、微生物を食べる小さな生きものが増えます。



周りより少し高いところに水を張ったお皿を^は準備して^{じゅんぴ}みよう。スズメやシジュウカラ、カワラヒワなどの小鳥の水浴びの場になります。

庭やベランダでミニビオトープをつくろう



鉢や水そうに水草や植物、水をいれてビオトープをつくると、トンボが卵を産みにやってくるかもしれません。トンボが好みそうな環境をつくってみよう。



ヤマザナエ



メダカ

おうちで野菜づくり

国分寺市内の農家が生産・販売する農畜産物は「こくベジ」として親しまれています。

家の庭やベランダで野菜を育てて、自分だけの野菜をつくってみよう。

野菜にはその野菜を好物とするチョウなどの昆虫が訪れます。



もっと知りたい方はこちらから

国分寺市生物多様性地域戦略は、第三次国分寺市環境基本計画の「戦略2」として詳しく書いています。

第三次国分寺市環境基本計画 (令和7年度～12年度)

国分寺市が目指す環境像 2050

緑・水・生きもの・多様なつながり

人と自然の共生の歴史を未来へ引き継ぐまち





国分寺の自然と生きもの 国分寺市生物多様性地域戦略（概要版）

発行：国分寺市

令和7年7月

編集：国分寺市まちづくり部環境経営課

表紙の写真：コナラのドングリ(左上)、コゲラ(右上)、アメリカザリガニ(左下)、ギンラン(右下)、生きもの観察会の様子(中央)